

唐津藩歴代藩主の移り変りとその政治①

～寺沢時代～

唐津藩は、初代寺沢氏が二代で断絶すると一年間の公領時代を経て、大久保・松平・土井・水野・小笠原と名だたる譜代が相継いで藩主の座についた。それは、幕府が唐津藩を長崎監務と九州の有力外様大名の監視役として重要視したからである。やがて唐津を去った大名のほとんどが、奏者番→寺社奉行→老中と、お決まりの出世コースを進んでいることから見て、江戸から遠い唐津藩への転封(てんぽう)は、将来を約束されたキャリアの道でもあったのである。

■ 寺沢時代 2代53年

初代 寺沢志摩守広高

2代 兵庫頭堅高

松浦郡 63,000石

石高 12万3,000石

薩摩国出水 20,000石 (慶長4年怡土20,000石と交換)

天草 40,000石 (関ヶ原の戦いの軍功で拝領)

初代寺沢志摩守広高は尾張の出身で、朝鮮出兵では豊臣秀吉の側近として、主に渉外事務や命令の伝達、軍需品の調達など、事務参謀的な任務に当たった。広高は、これまで波多氏や草野氏が領有していた松浦地方の支配権を得ると、唐津城の築城、虹ノ松原の育成や新田開発等の大土木事業を完成させ、一方で徹底した検地(元和検地)を実施し、唐津藩の支配体制を確立した。寛永10年(1633)、71才で死去。広高の墓園(唐津市指定史跡)は鏡神社脇にあり「前志州太守休甫宗可居士」と刻まれた花崗岩の墓碑は、塔身の高さ1丈2尺4寸(約3.7㍎)・面幅1.4㍎で、唐津にある藩主の墓碑では一番大きい。値賀川内石工(玄海町)の作と伝えられ、『秀島年代記』には、「石ハ和多田村ヨリ出ル」とある。墓園にある27基の灯籠は、志摩守の重臣達が3回忌(寛永12) 50回忌(天和2)等に寄進したものである。『水野侯演説書』には、毎年正月に歴代城主が代参していたと記している。

寺沢家の家督は次男の堅高が継いだ。9歳年長の式部(しきぶ)少輔(のしょう)忠(ただ)清(きよ)(忠晴・広成とも)は、生来病弱であったが、父広高は家老の中村藤左衛門を式部少輔の教育係に付け、大名のあり方を学ばせるなど英才教育を施している。しかしその後、次男堅高の元服が近づくと広高の態度が急変し、式部少輔を廃嫡(はいちやく)し宇木村に幽閉、中村藤左衛門を式部少輔から遠ざけて天草富岡城城代とした。元和8壬戌年(1622)4月朔日、式部少輔は24歳で死去、遺骸は宇木村の居宅(後の来雲寺)に葬られた。中村藤左衛門も同年6月20日、富岡城で後を追いつ切腹している。東雲寺には、兄忠清の供養のために弟の堅高が建立したと伝える五輪塔がある。寛永14年(1637)、関ヶ原の戦いの軍功で与えられた天草で、天草四郎率いる一揆が発生、それが因で天草40,000石は幕府に没収された。堅高は正保4年(1647)江戸藩邸で自殺、嫡子がなく寺沢氏は断絶した。享年39才。近松寺に堅高の墓碑(唐津市指定史跡)が建っている。

分野

歴史

◎地図・写真・統計資料など



(唐津ケーブルテレビジョンHPより)



市指定 寺沢志摩守広高墓碑
唐津市鏡字宮ノ原
指定年月日: 昭和58年7月24日

(『唐津市の文化財』より)

◎引用・参考文献(出典)

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話: 0955-72-3467

■ホームページ:
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html